

旭川市報道依頼

各報道機関 様

KJ00149331

2023年9月22日

発信課	社会教育部文化振興課
担当者	鈴木 ひな子
連絡先	電 話 0166-25-7558
	F A X 0166-25-8210
	E-mail bunkashinko@city.asahikawa.hokkaido.jp

分 類	イベント・行事 <input checked="" type="checkbox"/> 募集 <input type="checkbox"/> 契約・入札 <input type="checkbox"/> 会議・説明会 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/>
日 程	令和5年10月4日 10時00分 ~ 令和5年10月11日 15時00分
発表項目 (行事名)	旭川市民ギャラリー10月の展覧会について
概 要 (趣旨・日時・ 場所・内容等を 記入すること。)	<p>旭川市民ギャラリー（宮下通11丁目 上川倉庫蔵囲夢内）の展覧会を次のとおり開催しますので、周知の御協力をお願いいたします。</p> <p>○旭川市民ギャラリー10月の展覧会 展覧会名 旭川で最初の写真師中鉢直綱とあさひかわ写真展 主催 谷口雅彦写真アーカイブ室/写真師中鉢直綱研究室/ ENKENコレクション 併催 市民活動あさひかわ写真アーカイブ研究室 内容 写真作品（中鉢直綱が撮影した明治期の写真，旭川市民撮影による昭和～平成初期の写真など）約100点 日時 令和5年10月4日（水）～10月11日（水） 10時～17時（最終日は15時まで） 入場料 無料</p> <p>【今後の展覧会の予定】 ・アトリエたまむし展 ・「プリズム」ツルミチカヨ・ユキノコ・ハナキ</p>
添付資料	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
報道（取材）に当たってのお願い	お問合せにつきましては文化振興課（担当：鈴木）まで御連絡ください。 【文化振興課 TEL 25-7558】
備 考	

旭で最初の写真師

川

中鉢直綱と

あさひかわの写真展

10/4(水)~10/11(水)

旭川市民ギャラリー

入場無料 10:00~17:00(最終日は15:00)

1899(明治32)年、旭川で初めて写真館を開業した写真師・中鉢直綱(なかはちなおつな)が当時撮影したビンテージプリント(明治の旭川と日露戦争従軍写真)が貼り付けられた写真帖の公開展示と、「谷口雅彦写真アーカイブ室」所蔵の旭川関連の写真、市民活動「あさひかわ写真アーカイブ研究会」収蔵の旭川市民の写真を2000年代初め頃までを網羅して展示します。図書館や博物館など公的な機関に収蔵されていない写真で、旭川の100年を初公開いたします。

nakahachi naotsuna

【主催】 谷口雅彦写真アーカイブ室
「写真師中鉢直綱研究室」
「ENKENコレクション」

【併催】 市民活動あさひかわ写真アーカイブ研究会

【後援】 旭川市教育委員会

会場住所 旭川市宮下通11丁目 上川倉庫蔵囲夢内
お問合わせ 0166-23-3000

直綱が生涯持っていた写真帖がある。

そこに貼られている写真は、全て直綱が撮影したものではないかと思われる。

明治の旭川、そして日露戦争・二〇三高地。

ほぼ初公開の写真ばかりだ。

いま120年の眠りから蘇る。

忘れ去られた写真師・中鉢直綱。

中鉢直綱プロフィール

1879(明治12)年9月2日、山形県東村山郡天童町生まれ、4人兄弟の長男。次男・政太郎、三男・正直、四男・正綱。末の正綱はのちに、旭川中学(現在・旭川東高校)の第1期卒業生となる、その後、軍人となり第七師団に所属した。

1890(明治23)年、父母兄妹と共に北海道に開拓使(屯田兵)として滝川に入植。

1899(明治32)年、北海道旭川で初の写真館を開業。1条8丁目右10号に本店、後に4条7丁目左6号に支店を開業した。

1904(明治37)年、日露戦争開戦。第七師団に従軍写真師として参加。第三軍に編入、乃木希典に随行。乃木に「はち」と呼ばれていたという。

1906(明治39)年、旭川の写真館を兄弟に任せて、渡米。先に渡米していた従兄の菊地東陽(学治)氏と合流。経済と写真技術を学ぶ。

1909(明治42)年、帰国。旭川の写真館を閉じ、東京麻布飯倉5丁目で「中鉢写真館」を経営。

1914(大正3)年、東京大正博覧会に「愛」というタイトルの作品を出品。

1934(昭和9)年、菊地東陽氏が設立したオリエンタル写真工業株式会社の取締役を歴任。

1941(昭和16)年、オリエンタル写真工業株式会社取締役を辞任。

晩年は失明し、神奈川県葉山町で過ごす。

1961(昭和36)年8月28日死去。享年81歳。

墓所は多磨霊園。

2022(令和4)年5月、写真家で近現代写真研究家の谷口雅彦が代表の「谷口雅彦写真アーカイブ室」内に「写真師中鉢直綱研究室」が設けられた。

- 写真師中鉢直綱研究室・「直綱の写真帖」
- 谷口雅彦写真アーカイブ室・「谷口雅彦撮影のあさひかわの写真」「谷口家のアルバムから」
- ENKENコレクション・「旭川の写真と関連資料」
- あさひかわ写真アーカイブ研究会・「旭川市民たちの写真」

写真師中鉢直綱を発掘

【中鉢直綱】

旭川出身の写真家谷口雅彦(1967-)は、2000年頃、オリエンタル写真工業株式会社に外部から会社の沿革史に関わることになり、その流れで旭川の写真史を調べて行く上で、中鉢写真館は旭川で初めての写真館であることがわかった。『旭川市史』などには、中鉢写真館は数年間、旭川で開業したあとのちに東京に移転したが、その後不明と記され、『オリエンタル写真工業30年史』や『菊地東陽伝』には、中鉢直綱は、菊地東陽(オリエンタル写真工業株式会社創業者・社長)の従弟(いとこ)で、旭川で写真館を開業後、東京に移り麻布に写真館を開業したと記されていた。

2021年10月、谷口は、ある写真コレクターから、1907(明治40)年撮影の旭川第七師団内の建築途中の写真(撮影者・中鉢写真館・中鉢孝)を入手、それを機に、中鉢写真館の足跡について重点的に調査を始める。あらゆる関係者を辿り、2022年4月、東京都内にご子孫が住んでいることを突き止め、ご自宅にお邪魔してお話をお聞きする。同年5月、ご子孫が遺して下さっていた中鉢直綱の資料を引き継ぐ形で、段ボールにして3箱分の写真アルバムや資料(末弟・正綱のアルバムなども含む)を旭川に持ち帰り、「谷口雅彦写真アーカイブ室」内に「写真師中鉢直綱研究室」を設立する。



中鉢孝(旭川 中鉢写真館)撮影
第七師団経理部所属被服庫新築工事
1907(明治40年)6月26日撮影
鶏卵紙

※1907(明治40)年、直綱は渡米中のため、中鉢孝は、直綱本人ではないことが判明しているが、家族や兄弟に孝(こう)という名前の記録にはない。末裔も心当たりがないという。現在は、謎の一つ。今後の課題。旭川市中央図書館所蔵の写真1点は、後年に当時の担当者によって台紙の部分の切られており、どこの写真館が撮影したものかわからなくなっている。その前の時期に発行されたであろう「写真が語る旭川～明治から平成まで～」(2015年 北海道新聞社刊)によって「中鉢写真館」の撮影だとわかる。切られた台紙が破棄されていることから憶測でしかないが、撮影時期が明治39年か40年頃と予想されることから、「中鉢孝」の撮影になるのではないかとと思われる。他にも北海道大学付属図書館北方資料室所蔵の「中鉢写真館」撮影の写真9点は、台紙に「中鉢孝」と記されているため、現在のところ直綱本人が旭川で撮影したと特定できる写真が、公的機関には収蔵されていないことがわかる。



写真師・中鉢直綱(1879-1961)



東鶏冠北砲台の爆破(日露戦争・二〇三高地)
1904(明治37年)12月20日

【谷口雅彦写真アーカイブ室】

写真家谷口雅彦が2007年9月、旭川市内に、「谷口雅彦写真アーカイブ室」を設立。1970年、3歳で初めて撮った母の笑顔写真から始まり、谷口が撮ったネガ、ポジ、デジタルデータ、写真作品(オリジナルプリント、主にビンテージ)などを保存管理(アーカイブ)し、将来的に有効活用する目的で設けられた。代表は谷口本人、室長は実母の谷口多恵子。現在は原則非公開であるが、写真の二次使用、展覧会などの写真プリントの貸し出しを行っている。

[主な実績] ●詩誌『フラジャイル』表紙写真(2021年発行 第13号から現在も継続中) ●『あさひかわ新聞』連載「谷口雅彦の写真の話」(2023年5月から毎月第1週火曜日・継続中)

谷口雅彦撮影「昭和最後の日の太陽・旭川」
1989(昭和64年)1月7日

【ENKENコレクション】

谷口雅彦がコレクションしてきた本人以外の撮影の写真プリント、ネガ、資料類を約3000点収蔵する。明治期から昭和期にかけて撮影された写真、主に明治期から大正期は、アンプロタイプ、鶏卵紙、昭和期は、主にゼラチン・シルバー・プリント、カラータイプC、等などの印画(プリント)、ほかにゼラチン乾板、ポリエステルベース135・120サイズネガ等のネガも収集している。旭川に関する写真、ネガ、紙資料も積極的に収蔵。



西村某撮影(郷土史家・中村正勝旧蔵)
「旭川駅(二代目)及び周辺ほか」
9点 モノクロ・キャビネサイズ
ゼラチンシルバープリント
1956(昭和31)年12月



谷内写真館撮影
「旭川第七師団司令部及び近文山ノ景」
(ポストカード)
明治期



撮影者不詳「鏡谷登太(洋装)」
1905(明治38)年4月
旭川町に於いて撮影ス(裏書)
(慶応元年7月9日生まれ)鶏卵紙



北海タイムス旧蔵(旭川)
「金田一京助 近文コタン訪問」
1966(昭和41)年9月20日

市民活動「あさひかわ写真アーカイブ研究会」代表・谷口多恵子(顧問・谷口雅彦)

2022年5月に設立された旭川市民による活動「あさひかわ写真アーカイブ研究会」(谷口雅彦写真アーカイブ室とは協力関係)は、随時、メンバーを募集しながら、旭川市内を中心に写真収集に努め、同時に旭川の写真研究も進めています。まだ収集数は少ないが、主に口伝みによる広がり度で明治期から昭和期の旭川が写る写真を収集。現在、約10名ほどの市民で活動中。市民による旭川の写真を探しています。

アーカイブと市民活動

